

雑 報

定例研究報告会の開催

(昭和57年10月～12月)

<回>	<年月日>	<報 告 題 名>	<報 告 者>
17	昭57. 10. 6	多胎児の出産率について……………	今泉 洋子 技官
18	昭57. 10. 13	日本における質的人口問題——人口政策を中心にして……………	廣嶋 清志 技官
19	昭57. 10. 20	農村老人の居住形態——宮城県桃生町調査報告——……………	清水 浩昭 技官
	、	「第3回アジア太平洋人口会議」概況報告……………	岡崎 陽一 技官 河野 稠果 技官
20	昭57. 10. 27	最近の人口移動について……………	河邊 宏 技官
21	昭57. 11. 10	世帯構成の地域差の計測——その2——……………	山本千鶴子技官
22	昭57. 11. 24	第35回簡速静止人口表(生命表)(昭和56年4月～57年 3月)の算定結果について……………	石川 晃 技官
	、	有配偶女子の雇用労働力化について——1980年実地調査 結果——……………	中野 英子 技官 池ノ上正子技官 石川 晃 技官
23	昭57. 12. 8	死亡の男女格差の人口学的分析……………	高橋 重郷 技官
24	昭57. 12. 15	「人口推計のための出産力特別調査」概況報告……………	河野 稠果 技官 渡邊 吉利 技官
25	昭57. 12. 22	「第8次出産力調査(副題:結婚と出産力に関する全国 調査)」の夫婦出生力に関する集計結果概報……………	阿藤 誠 技官 高橋 重郷 技官 小島 宏 技官 大谷 憲司 技官 池ノ上正子技官

資 料 の 刊 行

<資料題名(発行年月日)>	<担 当 者>
○「研究資料」第228号(昭57.11.10) 第35回簡速静止人口表(生命表)(昭和56年4月1日～57年3月31日)……………	石川 晃 技官
○「研究資料」第229号(昭57.12.1) 都道府県別標準化人口動態率〔昭和5年全国人口標準〕昭和55年……………	石川 晃 技官

第55回日本社会学会大会

日本社会学会(会長・中野卓)の第55回大会は10月9日(土)と10日(日)の両日にわたって神戸大学で開催された。初日から2日目の午前にかけて48の部会で147のテーマのもとに166の一般研究報告が行われ、2日目午後には「日本社会の現状分析」というテーマでシンポジウムが開かれた。本年は人口・労働力部門での報告申込者が6名だったため、部会が2つに分けられたが、実際に報告したのは4名であった。

9日午前の人口・労働力部会Iでは関清秀教授(日本大学)の司会のもとに以下の2報告がなされた。

わが国最近の出生率低下とその将来見通しについて……………	厚生省人口問題研究所 阿藤 誠
欧米諸国における同棲の増加とその人口学的意味……………	厚生省人口問題研究所 小島 宏

時事的な問題が扱われたためか、家族社会学、社会福祉学などの人口以外の専門家が多数来場し、活発な質疑応答が行われた。

また、10日午前の人口・労働力部会では皆川勇一教授（千葉大学）の司会のもとに以下の2報告がなされた。
岩手県におけるコウホート出生力の分析……………盛岡大学 菊池芳樹
配偶関係における年次別変動の社会的文化的要因……………中村学園大学 山本文夫
（小島 宏記）

日本老年社会科学会第24回大会

日本老年社会科学会（会長：那須宗一中央大学教授）の第24回大会（会長：草間俊一岩手県立盛岡短期大学学長）が、昭和57年10月28日（木）・29日（金）の両日、盛岡市総合福祉センターにおいて開催された。今回の大会は、岩手県立盛岡短期大学を中心に運営され、2日間のプログラムを多方面にわたる報告と熱心な討論のうちに無事終了した。

人口高齢化の進行に対する関心の高さを反映して、今大会は一般報告として、A—疾病・障害、B—心理・精神医学、C—施設・処遇、D—社会・家族・農村、E—総合問題と多岐にわたる分科会が設けられ、また、「語りと老人—昔語りの心理療法—」、「農村の老人問題」の2つのシンポジウムが行われた。

本研究所からは、山口喜一・金子武治両技官の「地域別にみた老年人口の変動」（山口喜一報告）、中野英子技官の「結婚持続期間15年以上の世帯における子供の離脱——中高年世帯の形成過程に関する一視点——」および清水浩昭技官の「農村老人の居住形態」の3つの報告が行われたが、人口研究の立場からは、その他に、黒田俊夫教授（日大人口研）の「高齢化社会の基本的条件」、湯崎稔教授（広島大）の「地方政令都市の高齢化状況」などがあった。

今大会は特に農村の老人問題に関して、老人の生活実態に即したきめ細かい調査が報告され、東北の歴史的文化的な地域性をふまえた研究成果が参加者に感銘を与えた。

（中野英子記）